

# 自己評価票

自己評価は全部で100項目あります。

これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。

項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目の や 等)から始めて下さい。

自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したのものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。

自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

## 地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
. 理念に基づく運営	<b>22</b>
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	<b>10</b>
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	<b>17</b>
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	<b>38</b>
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
. サービスの成果に関する項目	<b>13</b>
合計	<b>100</b>

## 記入方法

### [取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

### [取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に をつけます。

### [取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

### [特に力を入れている点・アピールしたい点](アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

## 用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

## 評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目( 1から 87)とサービスの成果(アウトカム)の項目( 88から 100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	社会福祉法人 遊生会
(ユニット名)	認知症高齢者グループホーム まいらいふ
所在地 (県・市町村名)	新潟県燕市吉田旭町4丁目5 - 21
記入者名 (管理者)	中野 直樹
記入日	平成20年 8月26日

# 地域密着型サービス評価の自己評価票

(  部分は外部評価との共通評価項目です )

↑  
取り組んでいきたい項目

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印 )	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>. 理念に基づく運営</b>				
1. 理念と共有				
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	住み慣れた地域での安心した暮らしを理念に掲げ、職員全員認識している。		
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	運営理念を職員の目につくところへ掲示し、日々のケアで取り組んでいる。		
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	地域行事が多いことを利用し、できるだけ参加することで地域で暮らすことの大切さをアピールしている。また運営推進会議で報告し、その他、地域に何をどう働きかけるか等の話し合いをおこなっている。		推進会議では、地域のボランティアさんの来居頻度から来る生活バランス、緊急時の地域住民の協力体制、地域での広報の活かし方などが話し合われている。
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	住宅街ということもあり、隣近所との交流の場が多く、挨拶を交わしたり、日常的なお付き合いができています。散歩や買い物等で外出の際に気軽に声をかけあったり、気軽に立ち寄り、地域とのお付き合いがなされています。また月に1度のカラオケやお菓子づくり、アコーディオンのボランティアは、地域の方々の協力によるものである。		もっと日常的に、地域の人達が気軽にお茶を飲みに来れるように、していきたい。利用者様達と交わっていただけるようにしたい。
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	月1回、ホームの年間行事とは別に地域行事の地域のお茶の間に参加したり、近所の方がボランティアとして、活動に来てくれるなど、交流がある。		年間行事、地域行事、各種ボランティアと交流の場に恵まれている。しかしこれはあくまで職員の充実感の為に行うものではなく、利用者様が主体であり、また、日々の日課の上に成り立っているということを踏まえ、全体のバランスも考えていきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	<p>事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる</p>	<p>管理者は地域や各事所の会合や情報交換会に参加し、認知症ケアの啓発に努めている。</p>		
3. 理念を实践するための制度の理解と活用				
7	<p>評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>	<p>第三者評価の意義や目的を職員に伝え、全職員に自己評価に取り組むと同時に、グループホームに対する認識を再確認してもらうよう働きかけている。</p>		
8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>二ヶ月に一回定期的に推進会議を行い、話し合いを行い、意見交換をしている。また、利用者様も毎回参加され、利用者様が発言する場面も増えている。</p>		
9	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>推進会議とは別に、管理者は介護保険課の市役所職員に最近あった行事等の出来事等の報告と同時に、困っていることの相談や市職員からの意見等を聞いたりして連携を図っている。</p>		
10	<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>	<p>学ぶ機会を設けていない為、職員の理解が万全とは言えない。</p>		<p>勉強会を開き、職員の理解浸透や、遵守に向けた取り組みが必要である。</p>
11	<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>各職員、認識しているが、学ぶ機会がなく周知徹底されていない。</p>		<p>勉強会を開き、職員の理解浸透や、遵守に向けた取り組みが必要である。</p>

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4.理念を実践するための体制				
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>利用者様、ご家族様からの疑問点や質問が生じた場合は、時間をつくり、ゆっくりと、納得のいくまで説明できるようにしている。</p>		<p>特に入居時の契約の際には、後に誤解を招くことのないよう、わかりやすく説明ができるよう心がけている。また、ホームとしてできるサービス、できないサービスをわかりやすく説明し理解してもらえよう努めている。</p>
	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>利用者様の言葉や態度から、思いを察する努力をしている。</p>		<p>利用様から、意思や要望が出されやすいような機会をつくり、運営や日々のケアに活かせるようにする。</p>
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>面会時に日々の様子を報告したり、おたよりを発行している。金銭管理は、出納帳に記入し、ご家族様にサインをいただいている。</p>		
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>苦情・相談窓口を設置している。今のところ相談は来ていないが、相談しやすい雰囲気づくりに努めている。</p>		
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>少数規模の職場ということを活かし普段から職員がら相談しやすいように配慮している。また、公の場においては、職員ミーティングを月に1回開催し、意見を聞けるように配慮したり、普段から出ている意見、質問、疑問等を話し合えるよう議題に上げたりしている。</p>		
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>職員ミーティングをはじめ、その他、職員からの要望(場合によっては管理者から意見)を随時調整がとれるよう、また即対応ができるように配慮している。</p>		
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>今年4月より西川にグループホームが開設、来年4月にも新施設が開設となる。今後において異動や離職を最小限に抑える努力をしていきたい。</p>		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援				
19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	他の事業所の研修会に参加し、主に内部での職員ミーティング、管理者会議等の中で上司の意見やアドバイスを受けている。		
20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	定期的にある燕地区のグループホーム管理者会議に出席し、良い情報が得られた時は職員ミーティングや普段の引継ぎ等で自ホームで取り組めるように努めている。また、燕市のグループホーム間で交換研修があり、お互いのホームの良いところを見出せるように勉強の一環としている。		
21	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	運営者、管理者は現場職員の悩みやストレスが聞かれた時は、受容し、把握するよう努めている。		今現在親睦会等はなく、法人内外の交流会の場をつくり、気分転換の場を提供していけるようにしたい。
22	向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	運営者は、介護現場や職員ミーティングに顔を出すことも多く、現場職員の業務に関してや悩み事について理解する姿勢が伺える。		
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	本人の状況を把握し、十分に話を聴くことで、思いや不安を受けとめる努力をしている。一人々と関われる時間がつくれるよう、時間を工夫して個々にあった時間考え対応できるように努力している。		
24	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	ご家族様の状況を把握し、話を十分に聴いて、信頼関係が築けるよう努めている。		管理者は、問題が生じた時はできる限り時間をとり、ご家族様の訴えを聴くようにしている。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談事や悩みのあるご家族様には、できる限り時間をとり訴えを聴き、柔軟な対応ができるようにしている。		
26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用希望の段階から、できるならまずはホームの様子を見学していただき、ホームの雰囲気を生で感じてもらえるよう勤めている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	食事など一緒につくり一緒に食べたり、一緒にたたみ物をしたり等、家庭的な雰囲気が自然にできるようなアプローチに努めている。 普段から利用者様から教えてもらう場面も多く、お互いが一緒に生活しながら和やかな生活ができるよう努めている。		
28	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	利用者様の様子をこまめに伝え、ご家族様と情報共有に努めている。利用者様をはじめ、ご家族様の意見や希望に沿った支援ができるよう最大限努力している。		
29	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	ご家族様来訪時は、一緒に過ごせる空間を作ったり、潤滑油になれるよう心がけている。定期的に外出や外泊される方もおられ、より良い関係の継続に努めている。		ご家族様面会時等で、話し合いをする時もあり、できればもっと時間をかけて話し合いたい。
30	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族様協力のもと、知人の家に遊びに行ったり、手紙での連絡がとれるよう支援している。		
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者様同士の関係を理解し、気の合う仲間と過ごせる場面づくりをしたり、会話の架け橋になるよう働きかけている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	退居された方やそのご家族様には、いつでも気軽に遊びにきていただけるよう声かけをしている。転入先の事業所へ職員が個人的に遊びに行ったりしている。		サービスの終了した方々にも、行事に招待するものを検討したい。
<b>. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
1. 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	個別に話を聴いたり、日々の関わりの中での行動や表情を察し、把握に努めている。		どうしても時間に追われてしまい、ゆっくりお話ができない時もある。
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族様、ご本人様と馴染みの関係を築きながら話を聴き、把握に努めている。		もっと職員間で、皆様の生活歴や馴染みの暮らし方などを把握する為、センター方式を取り入れたい。かつて職員の入れ替わりが激しく、大変な状況であったが、現在は職員も落ち着いてきており今後、着手できそうな状態である。
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	入居者一人々の生活リズムを理解して、できることを日々の暮らしの中で発見できるよう努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ご家族様面会時等にお話し、ご本人様が暮らしやすいよう支援している。		課題となることをスタッフ全員で話し合い、意見交換ができる機会を設ける。
37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	1ヶ月毎にその月のまとめとして評価を行い、改善策を話し合ったりしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人ファイルにて、日々の様子や言葉を記録して、職員間の情報共有を徹底している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	ご本人様やご家族様の状況に応じて、外泊や外出、受診先など、臨機応変に対応している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	月に1度カラオケ、月に4～5会アコーディオン、不定期にお菓子づくりと、地域のボランティアさんに恵まれている。		
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	地域主催の行事、交流会の参加による社会資源を活用している。		
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	地域包括支援センターには、定期的にお手紙と広報を連携がとれるようにアプローチしている。		
43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人様やご家族様の希望するかかりつけ医を、ご家族様同行で受診されたり、往診に来てもらうケースもあり、関係が築けている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	提携医や個々の受診先において相談、連携に努めている。		
45	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	看護職員は配置していない。日常の健康管理は介護職員が対応しており、ご家族様、かかりつけ医との連携に努めている。		
46	早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	現在入院者は居られないが、体調不良時、緊急時などに備えて定期受診し連携をしている。		
47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	具体的には、まだ該当していない。		契約取り交し自時に、単独型である自ホームにできること、できないことを早期から説明をし、関係者全体の対応方針の共有を図る必要がある。ご家族様に不安を与えないよう、ご本人様やご家族様の思いに注意を払い、職員は当法人でできることは最大限努力し、状況の変化の度に話し合っていく。
48	重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	まだ具体的には該当していないが、今後の変化に備えて、ご本人様やご家族様の意向に寄り添い、主治医と連携していけるよう検討している。		
49	住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	様々な理由で退居された後、できる限りその人が安心して暮らしていけるようご家族様確認の上、情報提供をしていきたい。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)		(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>				
1. その人らしい暮らしの支援				
(1) 一人ひとりの尊重				
50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>入居者のプライバシーを損ねないよう、日々の関わりの中で、言葉がけなどの対応には配慮している。職員一人々が守秘義務を守り、プライバシーを損ねるような声かけはしていない。</p>		
51	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>	<p>選択肢を提案した言葉がけや、献立づくりなど、ご本人様から決めてもらう場面づくりをしている。</p>		
52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>生活リズムを崩さないよう、入居者のペースに合わせて支援しているが、一人々の望みにまだまだ欠けている。</p>		<p>その時々本人の思いを尊重して、個別性のある支援が送れるよう、チームケアを改善していく。1日の流れが職員のペースで過ごされることのないよう更なる努力をしていきたい。</p>
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
53	<p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	<p>入居者の希望に合わせ、行きつけの理美容を利用されている。朝の更衣時などには、ご本人様の意志で決められるよう、見守りをするように努めている職員も多い。</p>		<p>もっと利用者様がおしゃれができるよう、支援していきたい。(化粧品をすすめたり、スカートをはく機会を増やす等)</p>
54	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>可能な限り、食事づくり、後片付けなど入居者と一緒に行っている。個々に好みのランチョマットを使用し、楽しく食事している。職員も利用者様と同じテーブルで食事を摂っている。</p>		<p>その時々状況や、職員個々の考えもあるのだろうが、職員が食べ終わった後にすぐに食器をさげて洗う物をする事のないようにしていきたい。利用者様が気を使うことなく、安心してゆっくりした食事が提供できるようにしていきたい。</p>
55	<p>本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>	<p>一人々の嗜好を把握し希望をとっている。お酒の好きな入居者と一緒にお酒の好きな飲み物に付き添い、入浴後に楽しめるよう支援している。状況に応じて楽しんでもらっている。</p>		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	自立の方が多く、トイレで排泄している。個々の排泄パターンを把握しており、声かけ誘導など必要な支援を行っている。利用者様によっては、下剤を服用し排便コントロールをしている。		入浴拒否が強い方にたいしては、無理せず個々に合わせた対応により対応している。なぜ入浴が嫌になるのか、どうすればお風呂が1日の楽しみの一つと思ってもらえるか、など深くアセスメントしていきたい。
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	2日に1回のペースで、できる限り希望に合わせた時間帯で入浴していただいている。		入居者の希望に沿えず、職員の都合による入浴サービスになってしまうこともある。みんなが満足していただけるサービスが提供できるよう調整していきたい。
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々々の状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	生活習慣を大切に、希望に応じて夜間入浴を行ったりしている。日中は活動の場を増やすようにしているが、体調や表情には十分に考慮して、個々に合わせて休息がとれるようにしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	入居者一人々の得意分野での役割(料理づくり、洗濯たたみ物、縫い物、広告紙でゴミ箱づくり等)や楽しみごと(塗り絵、レク、体操、歌等)にふれ、個別に支援している。		入居者が手伝っているのではなく、職員が入居者を手伝っているのだというグループホームのあり方を理解し、また感謝の気持ちを持てるよう、徹底していきたい。
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族様に働きかけ、可能な方は財布を持ち小額所持している。お金を入れていることで、安心しておられる。		
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	近所周辺の散歩や買い物など、日常的に外出している。天気の良い日などは、近くの公園へ散歩に行ったり、日光浴を楽しんだりしている。		もっと一人々の希望が叶えられるように強化していきたい。
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	年間行事として外出行事も立てているが、出かけられる機会が少なくなってきている。ご家族様の協力で、定期的にドライブに出かける入居者もおられる。		事前に計画を立て、ご家族様参加の働きかけや、ドライブなど外出する機会を増やし、気晴らしの機会となる支援をしていく。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族様の協力を得て、ご本人様が希望する時に電話がかけられるよう支援している。友人に手紙のやり取りができるよう個別に支援している。		
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	家族や知人などが、気軽に訪問して下さっておられる。		地域密着型サービスとして、まだまだ近所の認知度は高いとは言えないと思う。施設というイメージを取り除き、敷居が高くないよう地域に働きかけていきたい。
(4)安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないケアを、全職員が認識しケアにあたっているが、学ぶ機会が希薄である。		具体的な行為を十分に理解できるよう、勉強会を開催し、全職員間で共通認識を持つ必要がある。
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は職員配置上危険が予測される時以外は、鍵をかけず開放しており、全職員が認識している。普段は玄関戸の上の鈴を付けることにより、出入りが分かるようになっている。		不穩の為、外に出てしまわれた利用者様には職員が寄り添い、一緒について行ったり、お話をしたりするなどして、自由な暮らしを支援している。
67	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	日中はフロアーにいる職員が見守り、プライバシーに配慮しつつ所在確認ができていると思う。また、夜間は1時間毎に巡視し、安全確認を行っている。		1階、2階に別れてフロアーがあるが、メインフロアーは1階である。日中2階で過ごされる利用者様には、時間ごとに声かけをするなどし、様子を把握している。
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	入居者の状態を把握しながら、保管管理に注意を払い、ケースに応じた対応をしている。		危険が予測されるもの(事務用品、トイレ用具、洗剤等)の置き場には、布で隠したり、鍵のかかる場所に置くようにしている。
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	ひやりはっと、事故報告書を通し、事故に対するリスクを職員間で共通意識が図られている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	緊急時の対応に備え、マニュアルを周知しているが、実質的な訓練の実施はされていない。		消防署の協力を得て、救急救命法の学習。全職員が対応できるようにする。
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年に二回は夜間想定避難訓練を行っている。その他にも月に1回ミニ防災を行っている。		ミニ防災は、小規模な避難訓練を行ったり、業者による防火関係の器具の説明会等を毎月1回実施している。今後は消防署に救急救命法の講習を依頼し、勉強する機会を増やしていきたい。
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	安全面を考え、変化があった場合には、が家族様に了解を得て対策を決めている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎日のバイタルチェック、表情の観察を行い、異変の早期発見に努め、職員間で引継ぎにて情報を共有している。少しでも表情や顔色などに変化がみられた時は、バイタル測定を行っている。		
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋のコピーをケースに貼ったり、職員が把握できるようにしている。服薬時はご本人様に必ず手渡しし、服薬を確認している。		
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	飲食物の工夫(繊維質の多い食品、乳製品の摂取)、活動の場を提供することや毎朝の体操の実施で身体を動かし、自然排便ができるよう取り組んでいる。		
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後、歯磨きの声かけを行い、個々に合わせて支援している。就寝前は義歯洗浄をおこなっている。毎週日曜日の夜は個々にポリデント漂白を行っている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食の食事摂取量を毎日チェック表に記入し、個々の把握ができています。毎食時以外にも水分を勧めている。夏季はポカリスエットを常備して熱中症、脱水症防止に努めている。		
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症に対する予防対策のマニュアルがあり、職員周知している。		
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	まな板、ふきん等は、毎晩漂白し、食器類は乾燥機にて殺菌熱処理を行っており、衛生面に気を付けている。生野菜は熱湯処理をしている。肉、野菜を切った包丁、まな板はその都度洗剤で洗っている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関先にベンチやプランターを置いて親しみが持てるよう工夫している。		
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感を感じる献立を入れたり、季節に応じた壁飾りなど、入居者と一緒に考えて作成している。また、利用者様から作っていただいた物をさりげなく展示したりしている。		
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	玄関前や2階フロアに、ソファとテーブルを置いて、一人で過ごしたり、仲の良い入居者同士でくつろげるスペースを確保している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具、生活用品を使い、家族の写真を飾るなど、心地よい居室づくりに配慮している。		
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	換気を適宜行っている。冷暖房の温度調節に注意している。特に職員の感覚での温度にならないよう気を付けている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人々の身体機能に合わせて、トイレや浴室、居室などの住環境が適切か、日々見直し、安全確保に努めている。		
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	一人々の状態を把握して、職員間で話し合い、状態に合わせて環境整備をしている。また、ご本人様の失敗や不安を取り除くよう寄り添うように努めている。		
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	玄関先にベンチを置いて、日光浴をしたり、畑のスペースやベランダを干し場に活用して、入居者が日々楽しみながら活動できるような環境づくりをしている。畑で獲れた野菜は入居者と一緒に収穫し、調理して食べている。		

. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の	
		利用者の2/3くらいの	
		利用者の1/3くらいの	
		ほとんど掴んでいない	
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある	
		数日に1回程度ある	
		たまにある	
		ほとんどない	
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と	
		家族の2/3くらいと	
		家族の1/3くらいと	
		ほとんどできていない	

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように	
		数日に1回程度	
		たまに	
		ほとんどない	
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている	
		少しずつ増えている	
		あまり増えていない	
		全くいない	
98	職員は、生き生きと働いている	ほぼ全ての職員が	
		職員の2/3くらいが	
		職員の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が	
		家族等の2/3くらいが	
		家族等の1/3くらいが	
		ほとんどできていない	

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

まいらいふの周辺には商店街や大型スーパー等があり、地域に密着した恵まれた環境のもとに、利用者様は買い物や食事づくり等を楽しみながら暮らしておられます。